



杉並区立杉並第五小学校 TEL3392-6528

心ほど目に見えるものはない
校長 東海林 孝吉



明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えになられたことをお慶び申し上げます。

杉並第五小学校は、いよいよ閉校となり若杉小学校と学校統合し、天沼小学校としてスタートする年を迎える。本校は、天沼地域の子どもたちの学校として輝かしい歴史と伝統を築いてきました。そして、多くの卒業生の心の故郷として愛され支えられてきました。しこのことを肝に銘じ、最後の年に当たり杉並第五小学校の子どもたちの教育充実のため、教職員一同さらに精進したいと思います。どうぞ今年も宜しくお願ひ申し上げます。

師走の異年齢活動・花咲けプロジェクトの時間の時のことです。校庭で、卒業式の頃に満開になり「ありがとう杉五小」の感謝の気持ちを学び舎にも地域の方々にも伝えようとビオラの苗を植える活動をしました。1年生から6年生までの混成グループでプランターに植えました。この活動に三つの町会の高齢者の方々からお手伝いをいただきました。孫の手をとるようにやさしく声をかけ指導してくださいました。高齢者の方々のやさしい眼差しと教えてもらう子どもたちの素直な態度が心に残りました。まさに、子どもたちの感謝の心と高齢者の方々の子を思いやる心遣いが、目に見えたひと時でした。

さて、重要無形文化財に指定されている結城紬を60年間も織り続けておられる永井千代子さんという方がいらっしゃいます。この永井さんにインタビューした記事を読み、心

に残る言葉がたくさんありました。

「結城紬の全工程一人でやって、間屋さんには持っていましたのは、15歳の春でした。今でも一番頭に残っているのは「よくできたなあ」言われた一言でした。言葉って言うのは、攻撃のためじゃない、人を育てるものなんですね。…「ダメだ」といったら、その子はそれを一生忘れないですよね。だから、お子さんを育てるときは、ほめほめ育てることが大切じゃないかと思っています」『糸を括るときも、まず心が大切。機を織るときだって、いらっしゃたらだめ、けんかをしてもだめ、人の悪口を言ってるとその通りに力が入ったりゆるんだりするから、心が大切です。

昔は、心は目で見えるなんて思ってもいなかったんですが、心ほど目に見えるものはないことを分からせてもらいました。自分を無にしても、周りの人を自分の命よりも大切にするという気持ちでないと、機は織れません。織られる糸の痛みを自分の痛みとしてとらえて織ることで、私自身も心に栄養を貰っているんですよ。」

一つの道に命をかけて生きる人の言葉には心に迫るものがあります。『心ほど目に見えるものはない』とは、心は見えないが、心遣いは見える、心の在りようが結果に表れるということなのでしょう。

今、杉五小の幕を閉じ、天沼小として良き道を歩むために、しっかりと越し方を振り返り、新たな展望を持つときです。その心の在りようが、将来の結果に表れるときであり、活力に富む素晴らしい杉五小の教職員が職責を果たしていく。『心のふるさと わが町杉五、学びのふるさと杉五小』を目指して、今年も保護者の皆さん、天沼地域の皆さん方と手を携え、真剣に子どもたちと向き合って、共育、共働、安心への道を、ともに歩みたいと念じます。

・・・・・ 今月の目標 ・・・・・

生活の目標

礼儀正しくしましょう

保健の目標

風邪を予防をしよう

給食の目標

食後は静かに休みましょう